

広報

my hometown TOMIOKA

2013

とみおか

4

No.606



主な目次 Contents

避難指示区域見直し	02
平成25年度当初予算	06
東日本大震災追悼式 「咲くら希望の集い」	10
町立幼稚園、小・中学校卒業式	12
こんにちは。大玉診療所です！	19
とみおか桜通信	20



3月25日午前0時 避難指示区域見直しが実施されました

富岡町の避難指示区域見直しが実施され、町内が帰還困難、居住制限、避難指示解除準備の3区域に再編されました。

無用な被ばくを防ぐため 一人ひとりが線量管理を

町内への立入りができるようになりましたが、区域内はほとんど未除染の状態です。

私たちが放射線被ばくから身を守るためには、各自が線量管理の意識を持ち、注意事項を守り実行していく必要があります。

区域内に立入る際の注意点

- 15歳未満及び妊婦の立入りは自粛する。
- 体調不良、体調に不安がある場合は立入りを控える。
- 被ばくを避けるため、不用な立入りをできるだけ控える。
- 屋外での作業はできるだけ控え、特に風の強い日などの作業は避ける。
- 屋外で作業をするときは、タイベックスーツ・マスク・手袋等を着用し、作業終了後は、必ず手洗い・うがい・洗顔等を行う。
- 屋外での飲食・喫煙はしない。
- 区域内で保管されていた物の飲食や持ち出しは行わない。

■井戸水、河川水、雨水等は絶対に飲用、利用しない。

防護装備とスクリーニング

避難指示解除準備区域・居住制限区域に立入る場合は、被ばく線量低減のため、防護装備を着用し個人線量計も装着してください。スクリーニングの義務付けはありませんが、健康管理及び放射性物質拡散防止のため、町ではスクリーニングを受けることを推奨しています。

帰還困難区域への立入りの際は、中継基地で配布される防護装備を着用し、個人線量計を装着してください。また、これまで同様、スクリーニングは義務付けとなりません。

立入り記録ノートの活用

区域の見直しに伴い、町への立入り回数の増加が見込まれるため、町では、皆さんがご自身で線

避難指示区域見直しの実施に伴い、3月25日、居住制限区域と帰還困難区域との境界にバリケード等が設置されました。また、国道6号通過車の無用な立入りを制限することから、帰還困難区域内の国道6号と接する道路(富岡消防署交差点以外)にもバリケードが設置されています。

立ち入りについて

今回の見直しにより、町内の避難指示解除準備区域と居住制限区域については立入りの制限がなくなりました。帰還困難区域は、従来どおりの一時立入りの申請が必要となりますが、立入り頻度が緩和されます(原則月1回)。

なお、立入りの際に必要となる書類は次のとおりです。

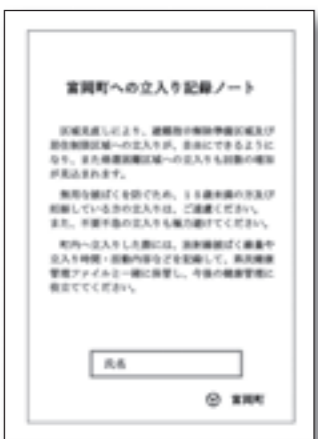
- 避難指示解除準備区域及び居住制限区域
 - ・立入り者全員の身分証明書(必須)
 - ・立入り証
- 帰還困難区域(通過を含む)
 - ・立入り者全員の身分証明書(必須)
 - ・通行証(必須)
 - ・立入り証

防犯対策のためパトロールを強化
立入りが自由となることから犯罪や火災の防止と抑止のため、

量管理を行えるよう「富岡町への立入り記録ノート」を発行しました。

このノートは、町内に立入りした際の、立入り日・立入り時間・活動内容・天気・風向きとともに屋外の空間線量率を計測し、記入していただくものです。当日の被ばく線量は、空間線量率×滞在時間で算出することができます。記録した、被ばく線量の累計により、町へ立入る回数の参考にしてください。

放射線は目に見えません。一人ひとりの心がけが、健康管理に繋がります。



区域別状況

	避難指示解除準備区域	居住制限区域	帰還困難区域
放射線量率の違い	年20mSv以下	年20mSv超～年50mSv以下	年50mSv超
立入り規制	立入制限なしバリケードは設置せず		立入制限ありバリケード設置
除染	立入りが容易なため、優先的に除染を実施		立入規制のため作業に難があり当面はモデル除染を実施
復旧工事	早期着手可能	除染後、20mSv以下とした上で実施	未除染の場合、拠点施設以外着手困難
宿泊・避難	いずれの地域も宿泊できません いずれの地域も避難指示は継続されます		

警察、消防、パトロール隊、警備会社による巡回が24時間365日体制で行われ、必要に応じて職務質問が実施されることがあります。この際、身分証明書の提示を求められる場合もあります。富岡町と町民の皆さまの財産を守るためですので、ご理解とご協力をお願いいたします。

※町内へ立入る際は、「富岡町への立入りのしおり」をご確認ください。



私たちが、富岡町を守ります。

立入りが自由になり、最も懸念されることは防犯・防火対策です。

町では、町民の皆さんのかけがえのない財産を守るため、「とみおか守り隊」を結成し日中のパトロールを実施しています。

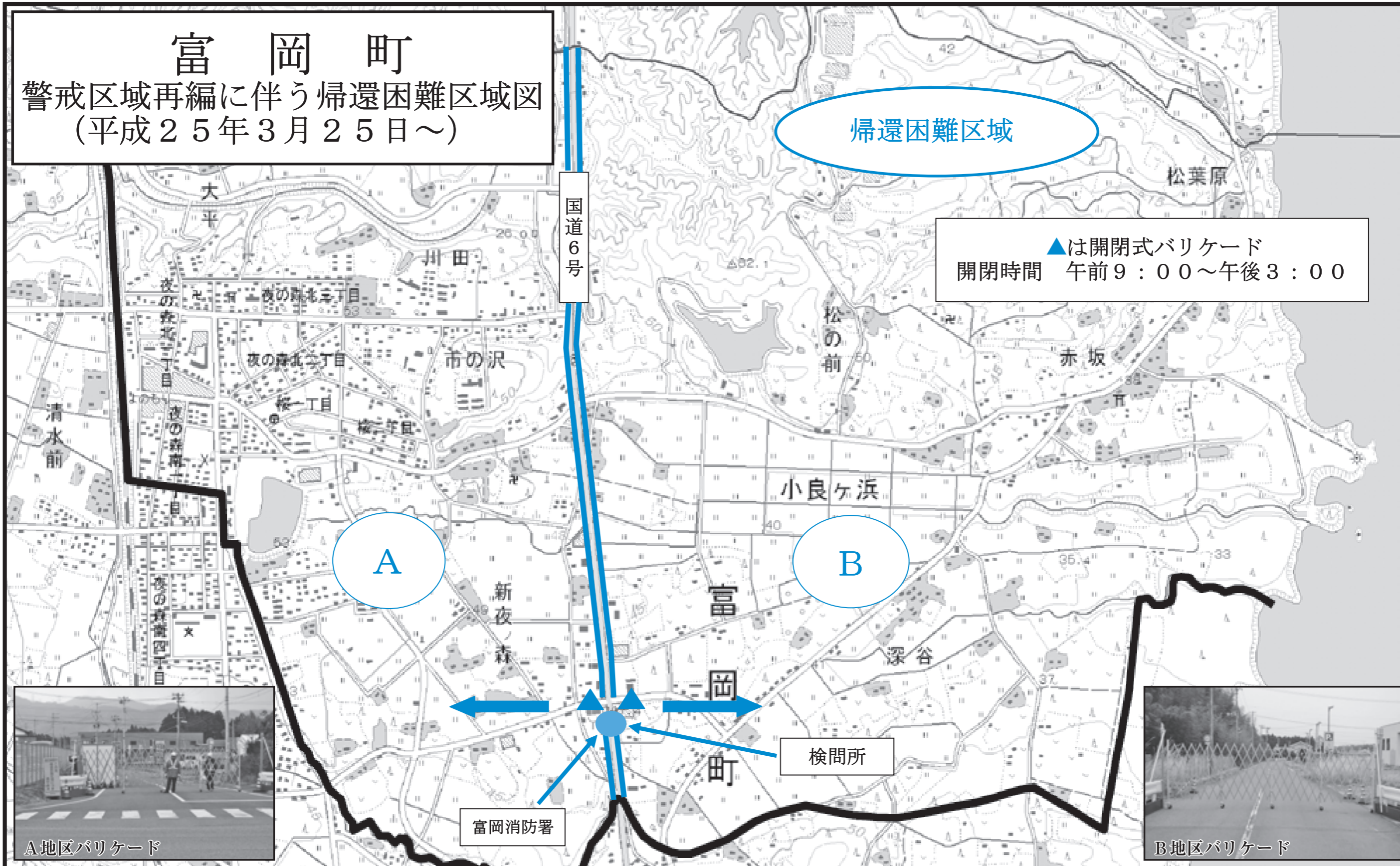
なお、夜間は警備会社に委託し、24時間、365日体制でパトロールに取り組みます。



町内をパトロールする警備会社の皆さん

富岡町

警戒区域再編に伴う帰還困難区域図
(平成25年3月25日～)



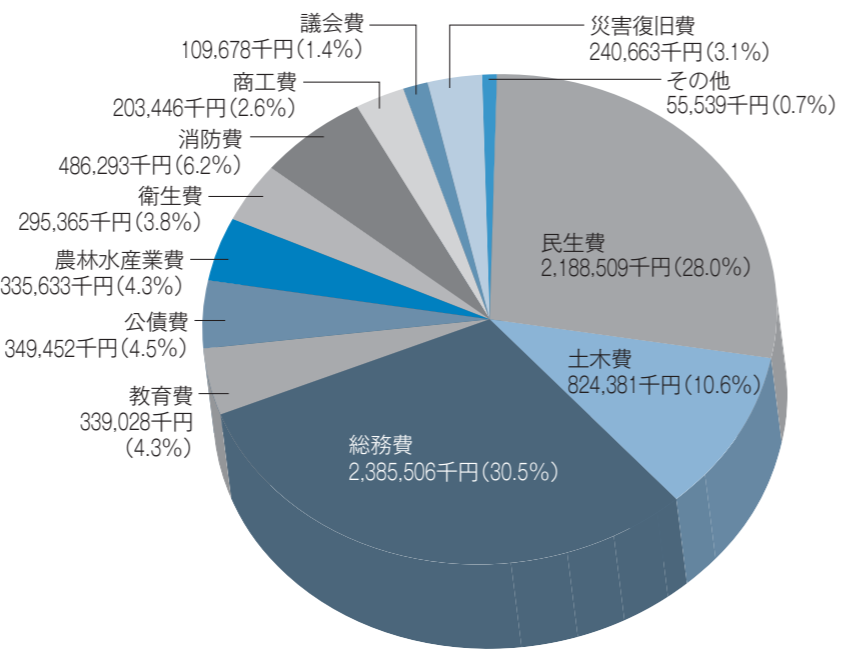
▲は開閉式バリケード
開閉時間 午前9:00～午後3:00

- ※1 上記図面で黒の太線で表示している帰還困難区域のラインに沿ってバリケードを設置いたします。設置箇所は、このラインに接する道路箇所となります。
- ※2 帰還困難区域へ立入りの際には、検問所通過後、国道6号より西側又は東側への通行となります。A区域からB区域、又はB区域からA区域へ移動時には、一度検問所へ戻っていただく必要があります。

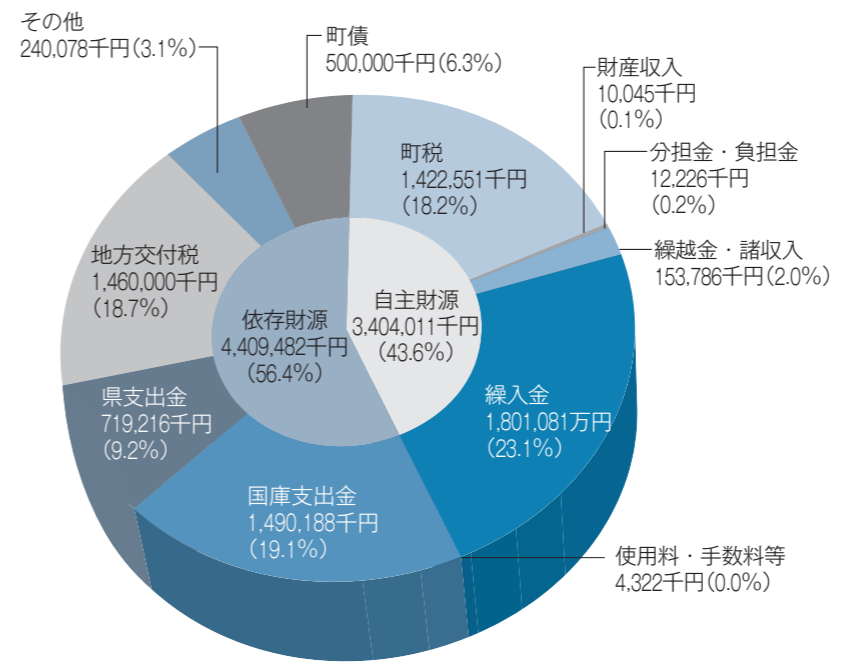
平成25年度一般会計当初予算

78億1,349万円

歳出78億1,349万円



歳入78億1,349万円



平成25年度予算が、3月11日から15日まで開かれた3月定例議会において可決されました。

一般会計予算は78億1,349万円です。対前年度比10・9%の増加です。特別会計予算を合わせた総額は120億1,853万円です。

●歳入
 主要な自主財源となる町税は、昨年度に引き続き減少見込みで前年度比10・5%の減となり、14億2,255万円を計上しました。

震災以前と比較すると約45%まで落ち込んでいます。

●歳出
 震災からの復旧・復興事業や震災避難に要する事業に最優先かつ重点的に予算を編成しつつ、将来的な財政運営の健全化に可能な限り努めました。

平成25年度予算の特徴としては、町道や橋梁の復旧事業の本格化、町道の亀裂や段差等の修繕、防火施設の新設・修繕の実施、警戒区域の見直しによって心配される犯罪対策として町内のパトロールによる啓発の実施などが重点事業です。

また、長期に渡り避難生活を余儀なくされている町民同士のコミュニティ維持のため各世帯等への広報誌の発送、タブレットを用いた情報の共有、仮設住宅自治会・町民団体の援助、県外避難地域ごとのタウンミーティング開催などに取り組み、ふるさと富岡から離れて生活することへの不安を解消できるよう、また安全な町内への立ち入りができるように取り組みます。

【特別会計予算】

	25年度予算額(A)	24年度予算額(B)	増減率(%)
国民健康保険事業	21億210万円	16億5,719万円	26.8
公設地方卸売市場事業	2万円	2万円	0.0
蛇谷須地区特定環境保全公共下水道事業	3,020万円	1,393万円	116.7
公共下水道事業	6億1,117万円	5億8,594万円	4.3
農業集落排水事業	1億3,144万円	8,057万円	63.1
曲田土地区画整理事業	308万円	2,136万円	-85.6
介護保険事業	11億4,987万円	11億5,430万円	-0.4
後期高齢者医療	9,750万円	1億355万円	-5.8
仮設診療所	7,549万円	5,907万円	27.8
介護サービス事業	417万円	354万円	18.1
	42億503万円	36億7,946万円	14.3
	120億1,853万円	107億2,629万円	12.0

【地方債現在高(見込額)】

会計名	平成24年度末残高	平成25年度中		平成25年度末残高
		起債見込額	償還見込額	
一般会計	21億398万円	4億円	3億1,924万円	21億8,472万円
蛇谷須地区特定環境保全公共下水道	6,333万円	0円	1,086万円	5,247万円
公共下水道	38億5,432万円	0円	2億8,207万円	35億7,225万円
農業集落排水	10億3,129万円	0円	5,790万円	9億7,339万円
曲田土地区画整理	289万円	0円	289万円	0円
計	70億5,581万円	4億円	6億7,296万円	67億8,285万円

【基金の状況(見込額)】

基金名	平成24年度末残高	平成25年度中		平成25年度末残高
		積立額	取かずし額	
財政調整基金	46億7,786万円	537万円	3億5,948万円	43億2,375万円
減債基金	2億9,701万円	5万円	507万円	2億9,200万円
行政財産維持基金	4億4,513万円	9万円	3億8,700万円	5,822万円
公共用施設維持基金	575万円	0万円	0万円	575万円
社会福祉基金	2億7,662万円	6万円	0万円	2億7,667万円
町勢振興基金	4,007万円	1万円	0万円	4,008万円
文化振興基金	2億6,324万円	123万円	0万円	2億6,447万円
ふるさと水と土基金	1,070万円	0万円	0万円	1,071万円
滝川ダム建設対策基金	2億6,305万円	6万円	1億2,300万円	1億4,012万円
さくら事業基金	212万円	0万円	0万円	212万円
公共用施設維持運営基金	10億5,970万円	10億1,340万円	9億円	11億7,310万円
電源交付金公共用施設維持基金	1億4,244万円	3万円	0万円	1億4,247万円
双葉地区教育構想支援基金	3,780万円	3万円	365万円	3,419万円
災害復興基金	8億9,417万円	19万円	0万円	8億9,436万円
東日本大震災復興交付金基金	2,289万円	1万円	2,288万円	1万円
小計	34億6,366万円	10億1,510万円	14億3,653万円	30億4,224万円
計	84億3,854万円	10億2,053万円	18億108万円	76億5,799万円

※端数処理の関係で合計が一致しない場合があります。

歳出予算用語の説明

歳出…………… 1年間の全ての支出のこと

議会費…………… 議会活動に要する経費

総務費…………… 一般的な管理に要する経費

民生費…………… 町民が一定水準の生活と安定した社会生活を保障するのに必要な経費

衛生費…………… 町民が健康にして衛生的な生活環境を保持するための経費

農林水産業費…………… 農林水産業の振興に要する経費

商工費…………… 商工業の振興に要する経費

土木費…………… 土木事業に要する経費

消防費…………… 消防に要する経費

教育費…………… 教育関係に要する経費

災害復旧費…………… 災害によって生じた被害の復旧に要する経費

公債費…………… 町債返済に要するお金

歳入予算用語の説明

歳入…………… 1年間の全ての収入のこと

町税…………… 皆さんが町に収めた税金

繰入金…………… 各種基金から繰り入れられたお金

繰越金…………… 前年度から繰り越されるお金

財産収入…………… 町の持つ財産を運用したり売ったりしたお金

諸収入…………… 雑入など、その他の様々な収入

使用料及び手数料…………… 皆さんが住民票などを取得する際に手数料として払ったお金

分担金及び負担金…………… 特定の利益を受けた方から負担していただいたお金

国庫・県支出金…………… 特定の目的のために国や県から交付されたお金

町債…………… 町の借金のこと。大きな事業を行うために、国や金融機関から借り入れたお金

地方交付税…………… 財政運営上の不足額を補う普通交付税、災害時などに交付される特別交付税、東日本大震災対応のため減収の補填や復興の財源として交付される震災復興特別交付税の総称

各種交付税…………… 所得税や自動車取得税など国や県から配分されたお金

教育と文化

将来を担う子ども達の育成や歴史的財産を継承していきます。

○震災による就学援助補助事業… 児童生徒に学用品や校外活動費等に要した費用の給付	5,519万円
○再会の集い事業… ふるさと富岡の仲間として、友情を繋ぐ事を目的にした再会の集い事業の実施	682万円
○学校施設維持管理事業… 町立富岡幼稚園、小中学校三春校の運営と維持管理	1,659万円
○文化交流センター施設管理事業… 学びの森の緊急的な損傷箇所の修繕	179万円
○図書館事業… 災害に備えた町史の電子化	733万円

やさしさに満ちた町をめざして

高齢者や障害者、子育て世代が安心してすごせるための事業を実施します。

○重度心身障害者医療費給付事業… 重度心身障害者に対して医療費の一部を補助	2,500万円
○緊急通報システム事業… ひとり暮らし高齢者へ緊急通報装置の貸与	331万円
○児童出産記念手当支給事業… 新生児出産の記念と少子化対策の一環として児童出産記念手当を支給	1,000万円
○児童手当支給事業… 中学校修了までの児童を養育している方へ児童手当を支給	2億6,685万円
○保育施設運営事業… とみたさくら・みはるせきれい・あだたらつつじ各保育施設の運営や避難先市町村と連携した保育支援	3,604万円
○保健対策事業… 県内数力所で健康診断の実施	5,407万円
○予防接種事業… 各種予防接種事業の実施	4,719万円



平成25年度重点事業 今年度予算の主な事業をご紹介します

災害支援

離散して避難生活を過ごしている町民同士の絆づくりや支援体制をつくります。

○応急仮設住宅管理事業… 仮設住宅の住環境向上を図るため適切な維持管理や追加設備の実施	1億995万円
○一時立ち入り事業… 警戒区域への一時立ち入りを円滑に実施	1,351万円
○コミュニティ推進事業… 仮設住宅自治会や住民団体活動の支援	8,296万円

生活環境の改善

区域の見直し後に発生する諸問題等を解決するためにインフラ等の復旧や防火防犯対策を行います。

○町道維持管理事業… 安全向上の一環として草刈り、除草剤散布や町道の段差の解消	7,030万円
○河川整備事業… 大作排水路の改修工事	4,000万円
○常備消防事業… 火事や緊急事態対応のため双葉地方広域圏組合への負担金	1億7,312万円
○消防施設維持修繕事業… 既存の消防施設の修繕	1,453万円
○防火防犯パトロール事業… 防火防犯のためパトロール事業の実施	1億9,101万円
○消防施設整備事業… 防火対策の強化のため新たに防火水槽を設置	5,362万円
○道路橋梁施設災害復旧事業… 地震により被災した道路橋梁の復旧を実施	1億6,000万円

「復興元年」の位置づけのもと、全力で取り組む



富岡町長 遠藤 勝也

3月25日、富岡町の避難指示区域の見直しが行われました。区域見直しに伴い、帰還困難区域を除き一定の制限はあるものの、避難指示解除準備区域及び居住制限区域については一時立入りが容易になることから、「ふるさと富岡」に対する町民の意識の高まりや、除染の本格化あるいはインフラの復旧・復興に向けた取り組みの加速化が期待されます。

平成25年度の予算編成にあたりましては、一時立入りされる方の安全安心を確保し、除染やインフラの復旧・復興を進め、早期に帰還を希望される方や、帰還を迷われている方のための受け皿となる社会基盤の整備に努めるとともに、今後しばらくは避難生活を継続せざるを得ないため、引き続き生活支

援や健康管理に重点をおいて、財源の配分を行いました。

また、災害支援、生活環境の改善、教育と文化、やさしさに満ちた町づくりを重点事業に掲げ、生活の再建と町の復興に取り組んでいかなければならないと考えております。

特に区域見直しによる地域の分断、避難先や避難形態の違い、あるいは子育て、教育、職場、放射線に対する考え方など、世代や社会的な立場等によって将来に向けた選択が異なり、町民の間で「心」や「絆」の繋がりが薄れてしまうことを心配しております。今こそ各個人や世帯の選択を相互に尊重し合える関係を築き、共に考え、手を携えて、この困難な状況を乗り越えていく必要があると考えます。

いよいよ、真の復興元年がスタートします。これまでの遅れを取り戻すためにも、全力を傾注し取り組んでまいりますので、町民の皆さまには、なお一層のご指導とご協力をお願いいたします。

郷愁のメロディを
奏でる四家昌博さん



町民の心の声を綴った
「原発難民の詩」の朗読



若さあふれる
ステージを見せた
ORANGE RANGE



歌で故里への想いを
届ける渡辺俊美さん



町民の皆さんによるステージ



幻想的な光を灯したキャンドル「希望の灯」
中央右側のキャンドルは、ふるさと富岡の「ろうそく岩」
をモチーフにキャンドルジュン氏により造られた



心をひとつに町民歌を合唱

故人を偲び、故郷の再生と未来への希望を誓う 富岡町東日本大震災 追悼式・咲くら希望の集い

多くの尊い命を奪い、続けるこの教訓を社会に生か
人々の生活や運命までも一 続けていくことが、犠牲にな
変させた東日本大震災から られた方々やご支援をいた
2年。犠牲となられた方々 だいている皆さまに対する
を偲び、ふるさと富岡の再 私たちの責務であると考え
生と未来を誓い合うため ます」と挨拶。四家昌博氏
に、3月9日、郡山市の迎 (元富岡高校講師)がピアノ
賓館グランプラスにおい を奏でる中「原発難民の詩」
で、富岡町東日本大震災追 の朗読が披露され、最後に
悼式並びに咲くら希望の集い 望郷の思いを募らせながら
が行われました。 出席者全員で富岡町民歌を
合唱しました。

追悼式では、震災関連で 亡くなられた方々に黙とう
を捧げたあと、遠藤町長が 「震災によりご家族や知人、
大切な思い出など多くのか けがないものや失った
皆さまの悲しみ、そして原発 事故による避難生活を送ら
ざるを得ない苦しみは言葉 では言い表せないものです。
震災から2年が過ぎました が、災害の現状や経過を、
国内そして全世界に発信し

引き続き行われた「咲く
ら希望の集い」は、遠藤町
長、新成人の幾橋和貴さん
(新夜ノ森)と佐藤由樹広さ
ん(同)による「希望宣言」で
幕を開け、ゲストのORA
NGE RANGE等による
ステージが繰り広げられる
中、出席された皆さんが懇
親を深めていました。

希望に満ちた未来へ向けて いま、巣立ちのとき…

富岡町立幼稚園の卒園式並びに、富岡第一小学校・第二小学校、富岡第一中学校・第二中学校の卒業式が過日行われ、子どもたちは次の新しいステージへ向けて学び舎を飛び立ちました。



楽しい思い出を忘れないよ！ 町立富岡幼稚園

町立富岡幼稚園の卒園式は、3月18日に三春町の同園舎で行われました。

卒園する4人の園児たちは、音楽に合わせて元気よく式場に入場。根本修行園長が卒園児に修了証書を手渡し「ありがとうの気持ちを忘れず、小学校で元気に勉強して

ください。」と式辞を述べたあと、園児一人ひとりが幼稚園での思い出や、小学校で頑張りたいことなどを大きな声で発表しました。

最後に全員で卒園の歌を合唱し、列席した保護者は笑顔で巣立つ子どもたちの姿に目を細めていました。

夢に向かって大きく羽ばたく 富岡第一・第二小学校

富岡第一・第二小学校の合同卒業式は、春の日差し溢れる3月22日、三春町の同校三春校で行われました。

式では、卒業する10名の児童一人ひとりに卒業証書が手渡され、富一小的の八島敬校長が「人の気持ちを考えて行動できる人になってほしい。心優しく思いやりを持った中学生に成長することを願っています。」と式辞を述べました。児童たちは「パン屋になっ

て自分が作ったパンを食べた人を笑顔にしたい。」「震災で飼った猫と離ればなれになってしまったので、動物に優しいペットショップの店長になりたい。」など、見守る保護者を前に力強く将来の夢を発表。式の終了後は、それぞれの教室で最後の学級活動を行い、在校生や幼稚園児、中学生、先生方の見送りを受けながら笑顔で学び舎を後にしました。



感謝の気持ちを忘れずに歩んでほしい 富岡第一・第二中学校

富岡第一中学校・第二中学校の合同卒業式が、3月13日に三春町の三春交流館まほらで行われました。

今年度の卒業生は、富一中が5名、富二中が9名。式では卒業生一人ひとりに卒業証書を授与したあと、富一中の吉田隆見校長が「感謝の気持ち忘れず幾多の困難にも立ち向かい、自分の描いた生き方に向けて一歩一歩登ってほしい。」と卒業生を激励しました。

富一中2年の荒木明彦君による「富岡の中学校の伝統を守り伝えながら、三春校の基盤を築き、新しい環境に戸惑う私たちを力強く導いてくれた先輩たちに感謝します。」という送辞に対し、卒業生代表の菊地志保さん(富一中)が「ふるさと富岡で過ごした日々、そして三春町で過ごした日々を忘れず、明るく強く

自分の道を切り開き、未来に向かって前進して行きます。」と答辞を述べ、一中・二中それぞれ全員で校歌を斉唱しました。

保護者の一人は「母校で卒業式を迎えたかったが、三春校に通ったことで、ドイツ研修など富岡で通学していたらできなかったかもしれない事を経験できた。」と、我が子の成長と新しい旅立ちを祝福していました。





自動車税の課税について

警戒区域に置いてある自動車(軽自動車を除く)については、平成23年度以降の自動車税を減免しておりましたが、平成25年3月25日に警戒区域が解除されたことに伴い、帰還困難区域以外に置いてある自動車については、平成25年度4月以降の自動車税が課税されることとなります。

なお、解除後2ヶ月以内に被災車両として永久抹消登録(用途廃止等)を行うと「申告」により課税されません。

富岡地方振興局県税課
☎0244-26-1127

保育料の助成について

富岡町から住民票を移さず避難している方で保育所への入所を希望している方は、原発避難者特例法により避難先の市町村で保育入所のサービスが受けられます。但し、避難先の自治体等によっては、保育料負担金が発生することもあります。

このため、町では保護者が納付した保育料の助成支援を行います。申請書は、富岡町役場郡山事務所・いわき・大玉・三春の各出張所に備え付けてあります。また、町ホームページ【災害版】申請書ダウンロードの「保育料の助成について」からダウンロードすることもできます。

なお、申請書の受付は富岡町役場郡山事務所となります。直接お持ちいただくか、郵送にてお申し込みください。

健康福祉課 福祉係

基本調査の書き方 説明や相談にお伺いします

県と県立医科大学では、「県民健康管理調査基本調査」問診票に関する出前書き方説明会と出前書き方相談会を、実施内容や会場などのご要望に応じて開催します。

開催は、土日・祝祭日を除く午前9時から午後4時の間で、1回当たり10名〜15名まで対応が可能です。

詳しくは、県立医科大学県民健康管理センターまでお問い合わせください。

県立医科大学県民健康管理センター
☎024-547-1786

法テラスふたば開設

日本司法支援センター(愛称：法テラス)は、国が設立した公的な法人です。身近な法的トラブルでお困りのとき、トラブルの解決に役立つ情報やサービスを提供しています。

また、平成24年4月に震災特例法が施行されたことによ

4月1日から「届出避難場所証明書」の発行がはじまります

東日本大震災における原子力発電所事故により、住民票を移さずに避難を余儀なくされている住民の方を対象に、原発避難者特例法に基づく「届出避難場所証明書」を交付します。「届出避難場所証明書」は、富岡町に避難先を届出している方に、届出している避難場所に相違がないことを証明するもので、民間契約等の際に、避難場所の証明を求められた場合などに使用できます。

▶対象者

現在、富岡町の住民基本台帳に登録されている方で、富岡町に避難場所を届出している方。

※避難場所の届出をしていない方や避難場所を移動されて未届けの方は避難場所の届出をしてください。

▶手数料 無料

▶受付場所 富岡町役場郡山事務所企画課・各出張所

▶必要なもの

- ①請求者の本人確認できるもの
・写真付きの場合は1種類(免許証、住基カード、パスポートなど)
・写真付きが無い場合は2種類(保険証と年金証書、保険証と年金手帳など)

②印鑑

▶請求できる方

・本人または同一世帯の方

※代理人が申請する場合は、委任状が必要となります。

▶郵便請求をする場合に必要なもの

- ①請求書(町ホームページからダウンロードができます)
※任意様式も可
- ②返信用封筒(切手貼付)
※必要な方の避難場所以外へは送付できません
- ③本人確認ができる書類のコピー
・写真付きの場合は1種類(免許証、住基カード、パスポートなど)
・写真付きが無い場合は2種類(保険証と年金証書、保険証と年金手帳など)
※ファックス、電子メールによる申請は不可

郵便申請する際に必要な項目及び記載例

(請求者の名前)	富岡 太郎
(富岡町の住所)	富岡町大字本岡字王塚622-1
(生年月日)	昭和30年4月1日
(性別)	男
(電話番号)	0120-336-466
(必要な方の名前)	富岡 太郎
(富岡町の住所)	富岡町大字本岡字王塚622-1
(生年月日)	昭和30年4月1日
(性別)	男
(避難場所)	郡山市大槻町字西ノ宮48-5
(当該避難場所における滞在開始日)	平成23年12月19日
(必要な部数)	1部
(請求者との関係)	本人
(使用目的)	銀行口座開設のため

▼返信用封筒

〒963-0201
郡山市大槻町字西ノ宮48-5
富岡 太郎

企画課 情報統計係

双葉農業普及所 からのお知らせ

双葉農業普及所では、避難されている農家の皆さまに必要な情報(農産物・土壌モニタリング結果、原子力災害に对应した農業技術情報、資金・事業の紹介など)を分かりやすくご説明するため、毎月県内5カ所に、相談窓口を設置しています。最寄りの窓口にお気軽にお越しください。

双葉農業普及所
☎0246-24-6044

JAふたばからのお知らせ

▼受付時間 平日9時〜17時
☎法テラスふたば
☎0500-3381-38005
福島県双葉郡広野町広洋台
1丁目1番89

JAふたば総務部

☎024-554-3095

地区別座談会開催日時及び場所

地区名	開催日時	開催場所	住所
福島	5月9日(木)午後1時30分	パルセいいざか	福島市飯坂町字筑前27番地の1
川内	5月13日(月)午後1時30分	JAふたば川内支店	双葉郡川内村上川内字町分106番地
広野	5月15日(水)午前10時00分	JAふたば広野支店	双葉郡広野町下北迫字苗代替1番地の1
いわき	5月15日(水)午後2時00分	いわき産業創造館(ラトブ6F)	いわき市平字田町120番地
会津	5月16日(木)午前10時00分	会津若松市文化センター	会津若松市城東町14-52
郡山	5月16日(木)午後2時00分	福島県農業総合センター	郡山市日和田町高倉字下中道116

開催日	開催地区	開催場所	開催時間
4月11日(木)	いわき市	いわき明星大学学生会館2階	10:00~ 15:00
4月12日(金)	会津若松市	会津若松市扇町応急仮設住宅集会所	
4月18日(木)	三春町	三春貝山多目的運動公園管理棟	
4月19日(金)	郡山市	郡山市富田町若宮前応急仮設住宅集会所	
4月26日(金)	二本松市	浪江町役場二本松事務所 二本松市北トロミ573番地	

いわき市新卒・若年者等
就職サポート事業参加者募集

いわき市では、卒業時に就職の決まっていない新卒者（既卒3年以内を含む）や、早期離職により安定した職に就いていない若年者等の就職支援として、学びの場、相談支援・支援の場、働く場を一体的に提供する、新卒・若年者等就職サポート事業を実施します。是非ご参加ください。

▼対象者

次の①～③の条件を満たす方で、いわき市内での就職に向け、就職活動を継続する意志のある方（市内在住者のほか、市外からの転入者も含む）

- ① 新卒者（高校・大学等を平成25年3月卒業）で、未就職となっている方
- ② 既卒者（高校・大学等を平成23年3月以降に卒業）で、未就職となっているか、早期離職等により、継続して1年以上同じ事業主に正規雇用されていない方
- ③ 若年者（44歳未満）で、早期離職等により、未就職と

なっているか、継続して1年以上同じ事業主に正規雇用されていない方

▼事業内容

就職スキルアップ・セミナーの受講

▼学びの場

就職活動の基礎知識、書類作成、自己分析、実践的な面接対策 など

▼実施期間

平成25年4月～6月
※週1回3時間程度で、全10回開催します。

▼相談・支援の場

早期の就職に向けた相談・支援

・個人カウンセリング
・就職相談、職業紹介

・就職面接会、各種セミナーの提供

※就職スキルアップ・セミナー終了後も就職が決まるまで、継続して支援します。

▼働く場（希望者のみ）

実践的な就労経験・就業意欲の醸成

・民間企業等へのインターンシップやトライアル雇用制度の活用による就業

・市日々雇用職員による就業
※応募者全員の雇用を確保するものではありません。

※市内事業所を中心に、企業開拓し、就業希望者とのマッチングを図ります。

▼定員

50名

▼募集期間

平成25年4月30日まで

※定員に達し次第、募集終了

▼申込方法

参加申込書に必要事項を記載し、FAX・Eメールにてお申し込みください（参加申込書は、いわき市のホームページからダウンロードする事が可能です）。

問い合わせ先 商工観光部
商工労政課 労政係
TEL 0246-2217478
FAX 0246-2110892

平成9年3月富岡第二中学校卒業生(昭和56年度生)の皆様へ～同窓会開催のお知らせ～

春の訪れを感じ、夜の森の桜を思い出す季節になりました。皆様お元気でしょうか？この度、女子の皆さんが厄年ということもあり、同窓会を企画いたしました。県内外に住居をおかれているため、難しいかもしれませんが、たくさんのご参加をお待ちしています。

- ・日時 平成25年7月13日(土) 17:30～
- ・場所 郡山駅前17:15分までご集合いただき、会場(駅前周辺を予定)に移動します。
- ・会費 5,000円(5月末迄に下記口座へお振込みください)
- ・振込先 ゆうちょ銀行 記号:10650 番号:29221771(他金融機関から振込む場合 店名068店 口座番号2922177) 名義:ホリモトユカリ(個人名義ですが、同級会用に開設します)
- ・その他 参加の有無を次のアドレスへメールでお知らせください。メールには氏名(旧姓含む)、参加の有無、会費の振込日をご記入ください。また、差し支えなければ電話番号と現住所もお知らせください。
メールアドレス tomioka_2nd_jhs_s56@yahoo.co.jp
※新たに同級生名簿を作成するため、不参加であってもご連絡をお願いします。

【平成9年3月に富岡第二中学校を卒業されたお子さん(昭和56年度生)がいるご家族の方へ】

現在の避難が続く状況や、震災前から転出等してこの記事を見られない同級生もいるかと思えます。こちらをご覧になられたご家族の皆さん、この記事を息子さん、娘さんに伝えて頂けると幸いです。ご家族の皆さんのご協力、お力添えを頂けますようお願い申し上げます。

幹事代表：田中桂一、堀本ゆかり、大須賀美幸、佐野佳子

私たちのお医者さん

こんにちは。
大玉仮設診療所です！



第1回 「診療所紹介」



大玉仮設診療所は、東日本大震災として原発事故による避難で、富岡町民らが身を寄せていた「ビッグパレットふくしま」内に医療体制を整え、井坂晶医師(富岡中央医院)、堀川章仁医師(夜の森中央医院)、佐藤正憲医師(さくらクリニック)、新妻学歯科医師(新妻歯科医院)の4人を中心に診療を行ったのが始まりでした。当初は、設備も薬も十分では無い中で診療となりましたが、各関係機関からの支援と協力を受け、処置を行っていました。

その後平成23年8月1日、安達郡大玉村の大玉村安達太良応急仮設住宅の集会所で診療を開始し、同年10月1日に「大玉仮設診療所」を開所。4人の医師が、日替わりで診療にあたりています。現在は、仮設住宅にお住まいの方だけではなく、遠方の避難先から診療に訪れる方もいらっしゃいます。

このコーナーでは、長期化する避難生活で健康を保つためのアドバイスや、季節により発症する流行病などへの注意点を、4人の医師が交代でお伝えしていきます。

診療所で患者を支えてくれた薬剤師を紹介します



ボランティア活動は私の夢でした

薬剤師 加藤 優子さん

私は、神奈川県藤沢市(江ノ島の近く)出身です。東京理科大学薬学部を卒業後、すぐに東京都中野区の佼成病院(340床の総合病院)に勤め、定年までの35年間働き、その後は、調剤薬局でパートタイマーをしていました。

私が大玉仮設診療所に勤めるきっかけとなったのは、平成23年3月11日に起きた、東日本大震災です。テレビで震災の報道を見て、すぐに神奈川県薬剤師会にボランティア登録をしました。その後、郡山市のビッグパレットふくしまと宮城県の石巻薬剤師会に派遣され、永年の経験を生かしボランティア活動を行いました。ちょうどその頃、大玉村に富岡町民107世帯310人が住む安達太良応急仮設住宅が建設され、敷地内に開所された大玉仮設診療所に勤めることとなりましたが、先月末で契約が終了し退職となりました。私自身も応急仮設住宅に住み、町民の皆さんにと共に生活し、寄り添った1年半でしたが、少しでも皆さまのお役に立てたことを嬉しく思います。



診療所内の様子



診療にあたる新妻歯科医師

診療科目：内科・外科・歯科
診療場所：大玉仮設診療所
大玉村玉井字横堀平158-10
受付時間：午前8時30分～11時30分
午後1時～4時

診療日

曜日	診療科目	担当医師	備考
月	内科・外科	佐藤正憲	午後3時まで
火	歯科	新妻学	
水	歯科	新妻学	
木	内科・外科	井坂晶	
金	内科	堀川章仁	

☎ 0243-48-4710

石井 芳久 さん (新町)
TOMIOKA 桜(さくら) 通信



妻・千佳子さんとともに (つるし雛は千佳子さん作)

震災の当日は、広報誌など役場からの配布・回覧物を午後1時過ぎに新町集会場で受取り、各班長宅に届けている途中、地震に遭いました。その後帰宅しましたが、幸い、一家に人が人などはありませんでした。

翌朝、避難となりましたが、私は行政区长という立場もあり、家族を先に避難させ、富岡二中の校庭で避難する車の誘導にあたっていました。その後リフレ富岡に移動しバスで町を離れましたが、川内村は既に一杯だったため、三春町の避難所に向かうことになりました。しかし、私は川内

村に避難している家族のもとに向かうため、田村市常葉町で下車。いちかばちかの気持ちでヒッチハイクを試み、運良く車で通りかかった常葉町の大久保さんのご厚意により、川内村内の親戚宅まで送って頂きました。家族は村内の体育館や知人宅などに分散していましたが、私たち夫婦はその知人(西山東二氏)宅にお世話になりました。自宅にはすでに西山氏の親戚知人など数十人が身を寄せていました。3月14日の午前中、西山氏の奥様が田村市内に買物に出かけたところ、途中、警戒に当たっていた警察官から原発が危険だと告げられ、急いで帰宅した奥様からそのことが伝えられたため、再び避難することになりました。しかし、長男の妻が自宅から乗ってきた車には燃料が無く、困っていたところ、西山氏より燃料が満タンになっている車を貸していただき、宇都宮市に住む妹一家のもとへと向かいました。妹宅では20日間ほど世話になりましたが、その間、4月から福島高専に入学する孫のこともあり、いわき市内で賃貸物件を探し始めました。現在生活している物件は妻の友人に見つけてもらいました

が、仲介している不動産業者が避難して不在だったため、その友人が所有者を探して直接交渉し、4月上旬には入居することができました。しかし、生活に必要な家電製品などはいわき市内では入荷待ちの状態だったため、宇都宮市内で調達し運び入れました。

いわきでの生活を始めて2年経過しましたが、庭も無くペットも飼えない生活は精神的に負担です。避難後、妻は持病が悪化して昨年手術を受けました。一時は精神的にも落ち込みましたが、私は卓球クラブに参加したり、避難後救出し、現在は長男の妻の実家(いわき市内)に世話になっている飼い犬と散歩したり、また、妻はつるし雛を作るなどしながら日々を過ごしています。

3月9日、一時帰宅のために自宅に立入りをしました。その道中、避難区域見直しに伴うバリケードが設置されていました。復興に向かって一歩踏み出したと感じた一方で、無機質なバリケードの姿に複雑な気持ちにもなりました。復興までは長い道のりが続くことになりませんが、今を充実させることとして、今は前向きに生活していきたいと思っています。

TOMIOKA

桜 通信

さくら

第12号

東日本大震災と原発事故により、私たちは、ふるさとを離れ、全国に分散した避難生活を強いられています。

この「TOMIOKA (とみおか) 桜通信」では、避難生活を続ける皆さんのもとを訪ね、皆さんの声をお届けし、ふるさと「富岡」という「絆」をつないでいこうというものです。



まちの思い出



まちの思い出

荒川 マサ子 さん (中央)
TOMIOKA 桜(さくら) 通信



体操講座の皆さんと (本人は右から2人目)

私は現在、娘夫婦と孫2人の計5人でいわき市内の借上住宅に暮らしています。震災発生当時、私は自宅に娘夫婦は勤務先、孫のうち一人はいわき市内の高校、もう一人は近所の娘夫婦宅におりました。大きな揺れは収まったものの、一人で娘夫婦宅にいる孫が心配だったため、その家へまず先に向かい無事を確認したときにはほっとしました。しかし、夜の森に住む息子一家や高校生の孫とは携帯もつながらず心配でなりません。あの状況の中では、いわきまで迎えに

もいけません。夜遅くになって長女が帰宅。その夜は車中で過越し、翌朝から始まった避難では川内村へ向かう道中の混雑を避け、三春町内の避難所に向かいました。そこで、いわき市内の親類宅に身を寄せていた高校生の孫が合流。その後、息子一家とともに福島市内の親類宅にお世話になり、翌月上旬から現在の住宅で生活しています。長男夫婦は勤務先の関係もあり、福島市内の借家にて避難生活をしています。頻りにメールや電話で近況を伝えあうなどお互いに励ましあっています。

地震後、いろいろと不自由な状況が続いていますが、この春、孫たちがそれぞれ進学や就職するなど、次のステップにはばたく孫の姿は、嬉しく思えるとともに、私の今後の人生にとっても大きな励みになっています。

猪狩 奨 さん (中央)
TOMIOKA 桜(さくら) 通信



妻・とみ子さんとともに

震災(地震)が発生したとき、私たち夫婦は自宅の母屋に、母は離れ(隠居家)にいました。初めのうちはすぐに収まるだろうと思いましたが、2分、3分経つても揺れが収まらないどころか、大きな揺れが断続的に襲ってきたため、妻と私は危険を感じて自宅の外に飛び出しました。丁度、屋根のひさしの下を通過したとき、落ちてきた屋根瓦が次々と頭を直撃し、私は気を失ってしまいました。一緒にいた妻はとっさに倒れ込んだ私の手を引いて、庭側に体を

ずらし、次々と落ちてくる屋根瓦の雨から逃れることができませんでした。その後、私は意識を取り戻しましたが、頭には大きな裂傷が幾つもでき、ほぼ全身が血まみれになり、妻も瓦の破片で右手に大きな裂傷を負いました。ふと我に返ると同時に、母の姿が無いことに気づきました。離れに駆けつけると、母は無事で、地震により壊れて水漏れを起こした水道管を抑えていました。私たちは怪我の治療を受けようと思いましたが、あの非常事態の中ではそうもいきませんでした。その日は余震も多く危険なため、富岡高校に避難しましたが、自宅を出るとき、私たちは不安で気持ちが動揺している一方で、母は避難に必要なものをしっかりと用意し準備万端でした。母は長年、助産師として極限状態を何度も経験してきただけあって、こうした非常事態でも冷静にしっかりとした対応をしていることに驚きすら感じました。

早いもので避難を始めてから2年。避難当初はせいぜい数日間と思っていたものが、「もう2年」です。震災までは、いまごろの季節になると、山菜採りなど夫婦で山を歩き、私は長年続けた趣味の写真のためにカメラを片手にといった具合でしたが、そうした日々はすっかり遠い存在になってしまいました。しかし、友人やお客様など縁のある皆さんと連絡を取り合い励ましあいながら「希望のある老後の日々」を目指して、肩肘張らずに済む範囲で日々を過ごしています。



福島県 いわき市

有限会社 大原インテリア

TOMIOKA 桜(さくら)通信



代表取締役大原泰夫さん(妻・美代子さんとともに)

私は大熊町内の施工現場、妻は大熊町内の事務所それぞれ被災しました。一旦富岡に戻りましたが、事務所も自宅も被害がひどく震災発生当日の復旧作業はあきらめ、比較被害が少なかった大熊町に住む長女夫婦の元に向かいました。翌朝、避難となったため、富岡に戻ることはできませんでした。川内村を経て、福島市内に住む姉夫婦宅に世話になりました。人的被害はなかったものの、会社の資料や書類は一切持ち出せずそのままになっており、そ

うした中、盗難が頻発しているなど物騒な情報が絶えません。私は居ても立ってもいられず、震災の発生から約2週間後、危険を承知で自宅兼事務所へと向かい、必要最低限のものを持ち出すことができました。福島市の姉のもとには約1ヶ月間滞在しその後、妻は宮城県内に住む娘夫婦のもとに向かい、私はいわき市内の姉に厄介になりながらアパートを探し入居することができました。姉や妻たちと離れ一人になると、今後のことをはじめ色々考えるようになりまし。まず、会社の規模を縮小したり、仕入れや給料の支払い、今後の支出に備えるため、長年掛けてきた保険や共済の解約や減額まで行いました。今思えば、そこまでする必要は無かったかもしれませんが、当時は、被災を理由に人様に迷惑をかけるわけにはいかないという気持ちでいっぱいでした。とにかく、先の見えない中パニック状態で、事業再開などは考えられませんでした。一通りの処理を終えたところ、震災前からお付き合いいただいたお客様たちから励ましの連絡や、避難先改装依頼などの声がかかりはじめ、少

しづつ仕事を再開するようになりまし。仕事をするにつれ、道具や資材も増える中、震災前の状態とはいかないまでも、復旧復興のために仕事を続ける決心がつき、一昨年11月、現在拠点としているところの土地を購入し、昨年7月には建物が完成し現在に至っています。震災以降、復旧復興が進む中、建築ラッシュが続いています。言い値が通る状態になっています。言事実です。しかし、私は避難開始後に声を掛けてくれた長年付き合いのある方々とのつながりを大事にしていきたいと思っ。事業規模拡大や利益追求より、できる範囲内ではありますが、皆さんからの仕事に誠心誠意応えたいと思っ。被災により多くのものを失いましたが、人のつながり、人のありがたみなど、失ったもの以上に得るものが大きく、大きな励みになっています。

〒九七〇一八〇四五
いわき市郷ヶ丘三十四一八
電話(〇二四六)二八一三九一〇
(FAX兼用)



福島県 いわき市

原 章一さん(新夜ノ森)

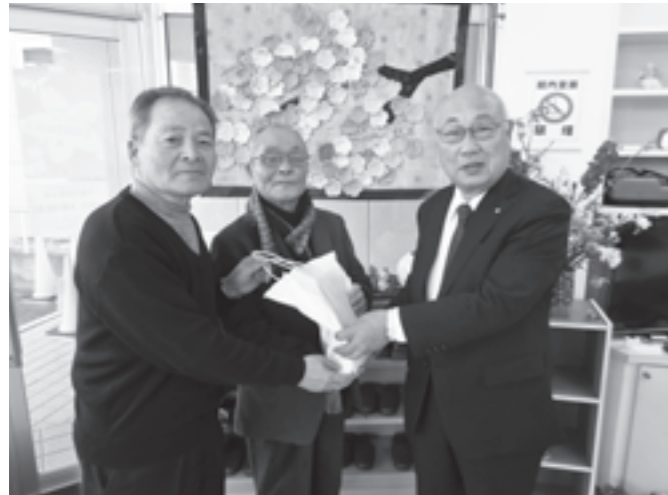
TOMIOKA 桜(さくら)通信



震災当日、私たち夫婦と長男はそれぞれの勤務先やその出先で、母は自宅で地震に襲われましたが、夕方には全員無事で顔をあわせることができました。その日は車中で夜を明かし、翌朝、お墓が心配だったため夜明けとともに墓地に向かうと、多くの墓石が倒れひどい状態になっていました。その後、井戸水を分けてもらいに近所の友人宅へ向かっている途中、避難の情報が入ったため、すぐに帰宅しました。とにかく急いで避難ということだったため、私は

勤務先の作業着のままでしたが、母は現金をはじめ、避難に必要なもの一式を準備していました。避難ではまず川内村に向かいましたが、新潟県柏崎市に住む妹と連絡がとれ、来ることを勧められたため、夕方には川内村を出て妹のもとに向かいました。県内の高速道路は通行止めだったため、一般道を走行しましたが、新潟県内に入ると、福島方面に向かう何十台もの消防車の隊列と遭遇しました。深夜には到着し、入浴し布団に入りましたが、そうした前日のことがとてもありがたいものと感じることになるうとは夢にも思いませんでした。柏崎に2日間滞在した後、埼玉県内に住む叔父のもとに向かい、一か月間ほど世話になりました。叔父の元で世話になってる間、勤務先の事業再開の見通しなどもあり、いわきでの住まい探しや仕事の処理などのため、いわきと埼玉を往復する生活をしていました。また、埼玉県幸手市や杉戸町などに多くの富岡町民が避難していましたが、その中には私や母の友人、知人も少なくなく、母を連れて幸手市の避難所となった福祉施設を訪れました。母

は友人たちとの再会をとても喜んでいました。当時は桜が咲いて、田植えが行われていた季節で、そうした様子を目にしてホッとするとともに、急に富岡が懐かしく感じられました。その後、いわきでの生活環境も整い、4月の中旬から現在の借上住宅に移りました。いわきに移った当初、長男を含め4人で生活していましたが、長男は就職先を見つけ独立し、今は私たち夫婦と母の3人で暮らしています。避難開始以降、環境の変化のためか家族全員が病気がちになったように感じられます。母も体が弱くなったように思いますし、私は持病が悪化して服用する薬の種類や量が増えました。避難開始後、初めの1年は先行きが全く見えない中、体調が悪化したりと不安が絶えない日々でしたが、長男が就職したり、母が近所で畑を借りて野菜作りをしながら、近所に住む富岡町出身の人たちと交流するようになるなど、少しづつではあります前向きな日々を送れるようになってきたと感じられるようになりました。



遠藤町長に義援金を手渡す渡辺さん(左)と豊田さん(中央)

筑波大学津軽三味線 倶楽部から町へ義援金

1月27日に茨城県つくば市で開催された、筑波大学井坂流津軽三味線倶楽部無絃塾(井坂斗絲幸塾長)の卒業公演において、同大学の学生による募金活動が行われ、集まった浄財が富岡町に寄付されました。

演奏会には、富岡町民60名が招待され、参加した豊田直助さん(高津戸)と渡辺長一さん(清水)が代表で義援金を預かり、2月23日、いわき平交流サロンにおいて遠藤町長に手渡されました。

原発と子どもたちの 未来を考える会より町へ義援金

岐阜県で活動続ける原発と子どもたちの未来を考える会主催の、記録映画「立入禁止区域・双葉」の上映イベントが2月24日に同県で行われ、会場で募った義援金が富岡町に寄付されました。

このイベントでは、映画上映のほか佐藤紫華子さん作の詩集「原発難民の詩(うた)」の朗読やトーク対談も行われ、対談に出演し警戒区域や富岡町民の現状を訴えた小貫和洋さん(中央)と鈴木文子さん(同)が3月13日に役場郡山事務所を訪問し、イベント事務局から託された義援金を遠藤町長に手渡しました。



遠藤町長に義援金を手渡す小貫さん(中央)と鈴木さん



教育委員会職員に絵本を手渡す猪狩さん(右)

富岡の児童へ 童話集のプレゼント

(株)猪狩商店JX富岡ステーション社長の猪狩昭彦さんが、JX童話賞作品集「童話の花束」を寄贈されました。

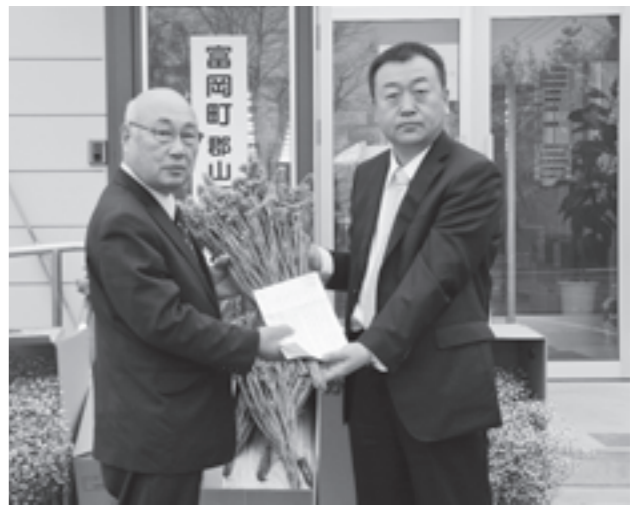
この童話集は「心のふれあい」をテーマに全国から作品を募集し作成されたもので、昨年12月に開催された富岡町立小学生のつどいに参加した低学年児童に配布されました。

心温まる花束の贈りもの

3月8日、和歌山県JA紀州中央の花農家がつ作ったスターチスとカスミソウの花束、計600本が寄贈されました。

同JAではエコキャップ運動を展開しており、この日はNPO法人エコキャップ推進協会南東北支部の今泉恵一支部長が代理で役場郡山事務所を訪れ、遠藤町長に花束を手渡しました。

いただいた花束は、3月9日に行われた「咲くら希望の集い」の会場に置かれ、参加された町民の皆さんの心に彩りを添えていました。



遠藤町長に花束を手渡す今泉支部長

平成25年1月～2月に義援金をいただいた企業・団体・個人名を掲載いたします。

(順不同・敬称略)

- ・これまで寄せられた義援金 4億8,847万592円(2月末日現在)
- ・配分された額 2億3,994万円(同)

井戸川自転車店(東京都品川区) 渡辺貞・たみ子(山形県上山市) 財団法人福島民報厚生文化事業団(福島市) 檜佐文野(埼玉県川口市) 島崎商事有限会社代表取締役島崎保夫(東京都国分寺市) 株式会社チェンジ代表取締役長瀬功(福岡県久留米市) 新日本婦人の会会長笹井貴美代(東京都文京区) 久留米市長榎原利則(福岡県久留米市) 在京富岡友の会 筑波大学井坂流津軽三味線倶楽部無絃塾井坂斗絲幸(茨城県つくば市)



遠藤町長にバスのキーを手渡す大岡社長(右)とウルトラマン

“光の国”から マイクロバスを寄贈

円谷プロダクションなどが立ち上げた東日本大震災被災地支援団体「ウルトラマン基金」から、福島県では初めて、富岡町にマイクロバス1台が寄贈されました。

贈呈式は役場郡山事務所で行われ、円谷プロの大岡新一社長が「大変な思いをしている子どもたちのために使ってほしい」と、駆け付けたウルトラマンとともに遠藤町長へレプリカキーを手渡しました。

バスは29人乗りで、車体には数多くのウルトラヒーローが描かれ、今年6月頃からスクールバスなどでの運用を予定しています。

町内の放射線量

富岡町が独自に実施した町内の空間放射線量の測定結果をお知らせします(単位:マイクロシーベルト/h)

No.	測定場所	3月17日(晴れ/曇り)		No.	測定場所	3月15日(晴れ)	
		地上1m	地上10cm			地上1m	地上10cm
1	下千里消防屯所	3.75	5.65	37	小浜住宅団地内公園前	4.75	7.42
2	上千里消防屯所	2.38	3.08	38	双葉環境センター	2.94	5.17
3	杉内消防屯所	2.97	4.25	39	NHK電波塔入口(浜街道)	4.82	7.25
4	第二工業団地入口	4.77	4.75	40	深谷集会所	7.32	7.22
5	高津戸集会所	6.50	9.67	41	赤坂神社前	7.71	11.50
6	富岡第二中学校東側	3.31	7.93	42	太平洋フリーディング前	14.90	18.90
7	新夜ノ森集会所	7.89	9.73	43	みよし前交差点	11.60	25.30
8	夜の森公園	3.65	6.91	44	富岡自動車学校前	7.69	10.30
9	松の前待避所	12.20	13.20	45	リフレ富岡	4.68	5.26
10	小良ヶ浜集会所	7.54	9.05	46	東洋育成園前	4.68	6.64
11	町境(小良ヶ浜地区)	9.61	12.30	47	富岡インター駐車場	4.99	6.47
12	深谷消防屯所	7.53	7.13	48	上手岡児童館	3.41	4.45
13	富岡野球場	1.26	0.83	49	下千里ライスセンター前	3.71	6.72
14	観陽亭前	1.53	2.85	50	館山荘前	4.25	6.27
15	富岡合同庁舎西側	3.78	3.99	51	夜の森つつみ公園	5.71	5.05
16	富岡養護学校	4.67	8.46	52	総合グラウンド東側駐車場	5.48	8.92
17	老人福祉センター	9.02	19.40	53	華の樹前	7.01	9.19
18	夜ノ森駅	7.46	9.66	54	宝泉寺前	4.10	9.01
19	王塚集会所	6.45	8.39	55	国道6号第二原発入口前	1.48	2.20
20	諏訪神社前	4.18	4.91	56	猪狩スタンド前	1.70	3.01
21	上本町消防屯所	3.96	4.99	57	なべや駐車場前	1.57	3.09
22	上本町集会所	3.32	3.95	58	大東銀行富岡支店前	3.30	3.93
23	リベラルヒルズ入口	3.27	5.51	59	富岡漁港	0.76	0.73
24	赤木集会所	2.36	3.56	60	サンライズイン富岡前	1.29	2.03
25	上郡山集会所	2.31	2.83	61	福島富岡簡易裁判所前	3.21	5.49
26	太田集会所	1.37	2.08	62	ヨークベニマル富岡店前	2.95	4.52
27	原下消防屯所	1.63	2.22	63	今村病院前	5.30	9.03
28	富岡駅	0.98	2.58	64	福島銀行富岡支店前	2.67	4.60
29	清水消防屯所	2.41	4.32	65	龍台寺前	2.98	5.32
30	役場	2.39	2.43	66	清水団地前	3.05	4.33
31	浄化センター	1.09	1.62	67	猪狩電気通信工業前	2.96	4.28
32	毛萱集会場	0.63	0.44	68	上郡消防屯所	2.77	4.14
33	富岡保育所	2.63	4.12	69	岩井戸鉱泉	1.56	1.89
34	中央児童館	3.35	4.93	70	富岡工業団地	2.07	1.97
35	栄町駐車場	2.28	3.23	71	成沢の滝入口	1.79	2.73
36	岩井戸消防屯所	2.02	2.51	72	沼名子橋	3.37	4.79

測定器: γ線用シンチレーションサーベイメーター(日立アロカメディカル社製)

安藤 治さん(高津戸) 消防長官功労章を受章



遠藤町長に受章の報告をされた安藤さん

富岡町消防団長の安藤治さん(高津戸)が消防長官功労章を受章されました。

安藤さんは、昭和49年10月に町消防団へ入団。永年に渡り地域の防災や安全のために尽力され、震災後も他の消防団員とともに週2回富岡町内の見回りを行うなど、精力的に活動を続けています。

安藤さんは「従来の消防団活動ができず残念だが、避難指示区域の見直しに合わせ、これからも町、そして町民の安全・安心を守るために頑張りたい」と今後に向けての抱負を語られました。

町民の安全安心と富岡町の治安を守る「とみおか守り隊」に委嘱状を交付

富岡町の避難指示区域が3月25日に再編されることを受け、町内のパトロール組織「とみおか守り隊」が結成され、3月19日、役場郡山事務所で委嘱状交付式が行われました。

遠藤町長から隊員一人ひとりに委嘱状を手渡したあと、「震災以降、安藤団長を中心に町内のパトロールや線量測定など、皆さんのご尽力に敬意と感謝を申し上げます。区域再編に際し、防犯など不安材料もあるが皆さんの活動を大変心強く思う。町民の生命財産や防犯防火、安心確保のために、任務を遂行していただきたい。」と隊員の皆さんを激励しました。

とみおか守り隊は3月25日から任務にあたり、これまでの線量測定と併せ、警察や双葉広域消防と連携しながら、町民の安全安心、そして富岡町を守るために特別警戒を遂行していきます。

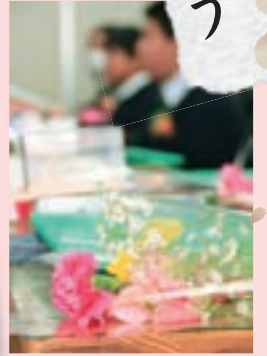


遠藤町長から隊員に委嘱状を交付



富岡町の安全安心を守る隊員の皆さん

たくさんのお
思い出をありがとう



発行／富岡町
編集／富岡町役場情報統計係

〒963-0201

福島県郡山市大槻町字西ノ宮48-5 TEL: 0120-33-6466 FAX: 024-961-3441

富岡町公式ホームページ【災害版】 <http://www.tomioka-town.jp/>

E-mail: tomioka.machi@gmail.com

郡山駅前9番乗場発 新池下団地行き または 大槻行き 停留所 西の宮停留所



この印刷物は、FSC®の基準に従って認証され、適切に管理された森からの木材を含んだ用紙を使用して印刷しています。